

## 「ブドウ」と呼ばれる透明な生物

香川県の<sup>ひうちなだ</sup>燧灘での3月下旬の試験操業の際に漁業者が、「あっちの方で網を曳くとブドウぐらゐの大きさのタマゴみたいなもんで網がパンパンになって、漁にならん。それで、一体“ブドウ”って何や？」と質問してきました。私は全く思いつくものがないので、もう少しそのブドウのことを聞きました。すると、次のような情報を教えてくれました。1) 毎年、2月の下旬ぐらゐから小型底びき網（桁網）に入り始め、3月下旬から4月中旬に最も多く入網し、それ以降はだんだん少なくなり、6月下旬にはほとんど入網しなくなる。2) 形は丸く、大きさは1~2cmぐらゐで、だんだんと大きくなる。3) 網から上がったときは泥をかぶっているが、よく洗うと半透明で、中に腸のようなものが見える。4) 強い力で握ると膜が破れる。5) たくさんいるところは限定されていて、三豊市大浜丸山島から仁尾町の岸側に多くいる。最初はコウイカ類のタマゴかと思っていたのですが、ブドウの出現し始める時期が、コウイカ類の産卵期に比べてかなり早いことやだんだん大きくなるといったタマゴとは言えない特徴を持っているので、まったく見当がつかなくなりました。考えているうちに網が上がり、現物を見ました。



網から上がったブドウは、巨峰のような大きさでした。そして、よく洗うと透明になりました。中には腸のようなものがあり、生物には間違いのないのですが、一体何なのかよく分からず試験場に持ち帰り、図鑑で調べることにしました。

図鑑で調べると・・・[ホヤの仲間のフクロボヤ科](#) Molgulidae の一種であることが分かりました。種についてはホヤの同定に関する知識に乏しいので自信がないのですが、[カンテンボヤ](#) *Eugyra glutinans* (もしかしたらマンハッタンボヤ *Molgula manhattensis*) だと思われます。

ホヤというと、岩やロープなどに付着しているイメージがあり、大量に底びき網に入ってくるとは思っていませんでした。

### 【参考文献】

(独) 海洋研究開発機構 BISMAL : <http://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/view/0001719>

西村三郎 (編) : 日本海岸動物図鑑Ⅱ. 1995 : 保育社, 663pp.

内海富士夫 (監) : 水生生物. 1983 : 学習研究社, 340pp.

(文責 主任研究員 山本昌幸)